

「句会体験の会」

(平成17年7月)

このところ月例会は場所を変え、色々な企画を凝らしてやってきていたから、「句会体験」などという地味な機会に集まってくれる人がいかほど居るか心配でした。それが若泉真樹先生も含めて16名。葦の会の会員と一般参加の方が半々という規模的にも、構成的にも理想的な会になりました。

何より驚いたのは葦の会以外の方のセンスの良さです。我々も何時の間にかマンネリになっていたのかなと、考え込まざるを得ませんでした。今回は本人が気に入っているかどうかに関わらず、各人の句を、添削のあったものは添削後の形で1句ずつ載せます。

正座して身の錆落す今年竹
熱帯夜若者集うコンビニに
桐下駄の足裏にやさし藍浴衣
花鋏鳴らす朝顔の大輪に
向日葵やひたすらだった学徒兵
かなかなやマンション群は紅に
夏帽や鬘鑠の二字この人に
七夕の願い裏切る多発テロ
尾瀬沼の風を今年もキスゲ咲く
残る蚊の侮り難き力あり
暑き午後講師の声が遠くなる
蟬鳴くや朝靄立ち込むフェアウエイ
夏枯れやスリッパ並ぶ旅の宿
草ものの花材うなだる猛暑かな
向日葵やゴッホのタッチ真似て描く
送り火の消えし漆黒立ちつくす

若泉真樹(典世)
篠原申牛(周平)
竹村尚紘
公嶋千鶴
石塚正郎
木村尚草(一三)
木野三周(納)
廣瀬邊邊(行夫)
石村謙作(誠人)
立川康子
英 公子
石坂 廣
遠塚青嵐(富哉)
宮崎知子
阿片公夫
福山至遊(秀雄)

どうしても最初は点数の多寡が気になります。勿論沢山点が入って嬉しいのは自然ですし、やはり張り合いの1つでしょう。でも点の少なかった句、入らなかった句にも佳句が潜んでいるものです。先生だけが採られた句が2句ありましたが、少なくとも句材としてはいいということです。続けて句会に来ていると好不調の波は必ずあります。

葦の会は毎月最終土曜日(吟行等で出かける場合は変わることがあります)で

すが、これで俳句に興味は持ったけど、この日では出られないという方は、他にも週末やウィークディの定時後など多くの句会に真樹先生が関わっておられます。ご相談頂ければ色々紹介できると思いますので、是非続けてみてください。(福山至遊記)